

浴槽設備の管理は？

浴槽の清掃だけでは防げません。レジオネラ属菌の温床となりやすい循環ろ過装置の清掃など、関連する設備や配管などを日常的に点検・清掃することが必要です。特に生物膜はレジオネラ属菌の温床となるため、除去することが必要で、洗浄・消毒が不十分だといつまでもレジオネラ属菌が検出されますので注意が必要です。

貯湯槽の管理方法

ポイント
貯湯温度が低い(60℃未満)場合は、レジオネラ属菌が繁殖可能となり、貯湯槽のように湯水が滞留する所には生物膜が生成されやすいので注意が必要です。浴槽の洗い場、洗面所、厨房にも給湯されますので、特にシャワーを使用する場合はエアロソルが発生しやすいため注意が必要です。

対処方法
①年1回以上は清掃すること。
②定期的なドレン管からの排泥も効果的です。
③貯湯槽の湯温は60℃以上に保つこと。

配管の管理方法

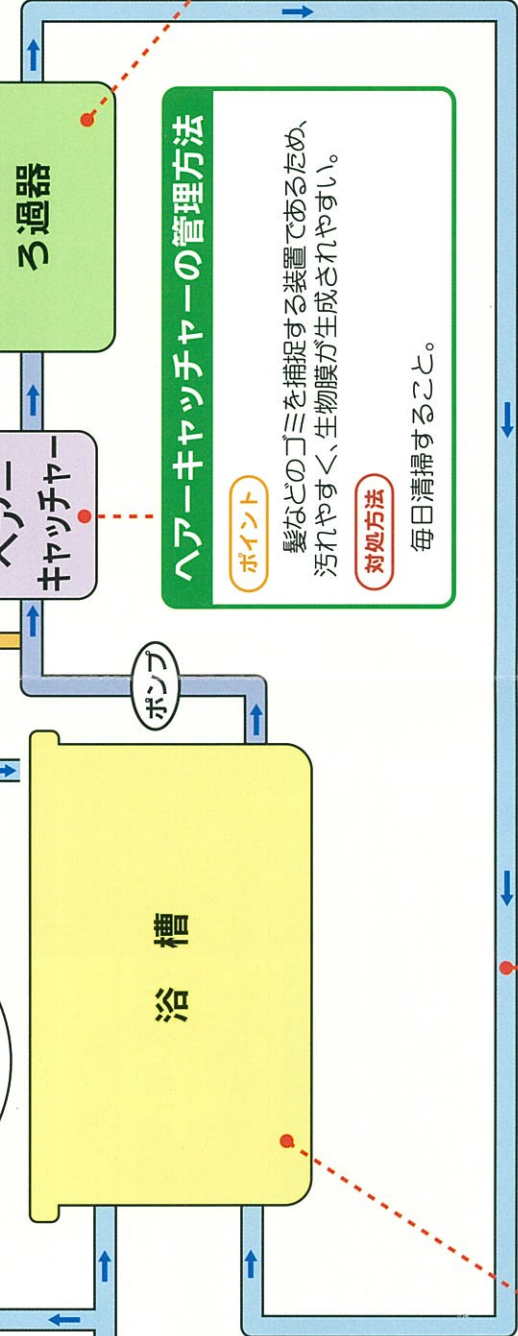
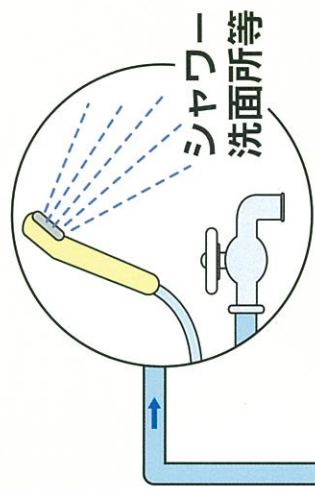
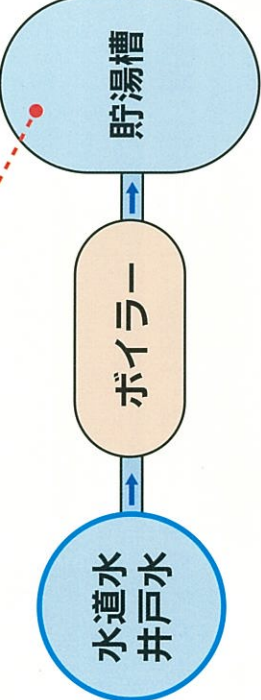
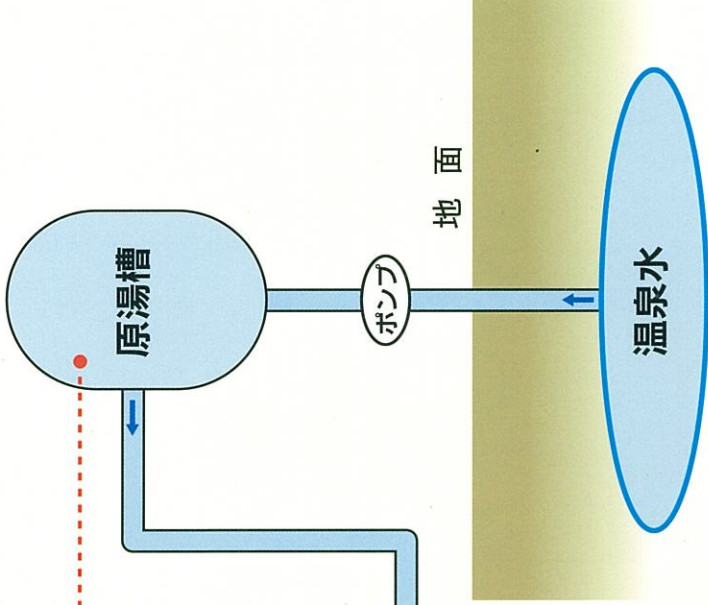
ポイント
配管の内側は、生物膜が生成されやすいので、注意しましょう。

対処方法
年1回以上は清掃すること。

源泉槽の管理方法

ポイント
源泉の温度が低い(60℃未満)場合は生物膜が生成されやすく、レジオネラ属菌が繁殖しやすくなります。

対処方法
①年1回以上は清掃すること。
②外部から砂塵等が容易に混入しないような措置を講ずること。



ろ過器の管理方法

ポイント
構造が複雑で生物膜が生成されやすいのでレジオネラ属菌が繁殖しやすい。なお、定期的な生物膜の除去などの管理が不十分だとレジオネラ属菌の供給源となってしまうため、特に注意が必要です。

対処方法
①入浴者数に応じて逆洗(週1回以上)するほか、ろ材の状況に応じて物理的洗浄を行うなどして、生物膜の除去に努めること。
②高濃度の塩素(遊離残留塩素濃度5~10mg/l)により週1回以上は消毒すること。

エアークャッチャーの管理方法

ポイント
髪の毛などのゴミを捕捉する装置であるため、汚れやすく、生物膜が生成されやすい。

対処方法
毎日清掃すること。

浴槽の管理方法

ポイント
レジオネラ属菌は、入浴者の身体に付着して持ち込まれたり、土ほこりに付着して侵入します。このため、露天風呂は特に注意が必要です。浴槽内は温度、栄養分等のレジオネラ属菌が繁殖しやすい条件が整っているため、管理を怠るとレジオネラ属菌の温床になってしまいます。エアロソルを発生する設備(気泡発生装置、ジェット噴射装置など)を有する場合には、感染のリスクが高まります。

対処方法
①塩素剤による消毒を行い(遊離残留塩素濃度 0.2~0.4 mg/l、最大でも1.0 mg/l 以下)、毎日、塩素濃度を確認すること。
②週1回以上は、配管内も含めて完全に換水し、浴槽を清掃すること。
③レジオネラ属菌の自主検査をすること。
ろ過器無し又は毎日完全換水の場合...年1回以上ろ過器有り(連日使用)の場合...年2回以上ただし、消毒方法が塩素消毒以外の場合は年4回以上

循環ろ過配管の管理方法

ポイント
配管の内側は生物膜が生成されやすいため、レジオネラ属菌が繁殖しやすい。

対処方法
高濃度の塩素(遊離残留塩素濃度5~10mg/l)により週1回以上は消毒すること。

浴槽水からレジオネラ属菌が検出されたら、次の順で対応してください。

- 浴槽の使用を直ちに中止する。
- ろ過器の逆洗を実施した後、浴槽水に塩素剤を投入し、高濃度(遊離残留塩素濃度10~50mg/l)に調整して数時間循環させ、浴槽、配管、ろ過器の中を消毒した後、生物膜が除去されたことを確認する。
- 高濃度塩素処理後は処理水を完全に排水し、ブラシ等を用いて浴槽を洗浄する。なお、処理水を排水する際は、放流先に注意すること。
- 洗浄が終わったら、浴槽、循環ろ過装置、配管をすすいだ後に浴槽に給湯し、残留塩素濃度が0.4 mg/l 以上確保されていることを確認してから使用を再開する。
- 使用再開後に浴槽水のレジオネラ属菌検査を実施し、検出されないことを確認する。(検出した場合は①に戻り、洗浄、消毒を再度に実施する。)